

・今回はあと1か月半となった合宿に向けての話と、正月には効果的に取り組むことが出来なかった長期休暇の企画について話しました。

合宿の公開個別フォロー企画では、弱い部分や大失敗をあえて見せることを意識したいと企画したメンバーから話がありました。

メンバーが肌感覚で感じている自己開示のメリットを、陽子さんが私たちが身の回りでもっと活かせるようにと色々な例を出して話してくれました。

例えばメンバーが「失敗」としてお酒の席の醜態話をしたとして身近には思えるかもしれないけれど、そういった話の披露大会は私たちのやりたいことなのかを問いました。

自己開示を通じて実現できる未来が広がるのが陽子さんの本当に伝えたいことだし、私たちがまだ分かっていない本当の良さなのだと思います。

私の「10年後の未来を考えるワークショップ」では、陽子さんとの個別フォローを経て、自分が会社と業務委託契約を結んだとして出せる商品はこのお題を出しましたが、他のメンバーにはピンと来ない感じでした。

陽子さんから、今回っている生活のスケールを大きくすることのめんどくささと、それを超えるメリットを思えないと考えられないというメッセージを頂きました。

そこから、皆が共通で思い描ける「生涯現役でいたい」という姿を将来の目標として描いてみるのはどうかというアイデアを頂きました。

自分の考え方の癖(将来からの落とし込み)と、メンバーの考え方(目の前の現実から広げていく方がやりやすい)の差

も意識出来ていなかったから、こういったずれが生じたのだなと思いました。

「70歳でも現役」という言葉で、皆のイメージが一気に広がった感がありました。

実際70歳ってどんな思考や思考なんだということを、親がその年代に入っていながら理解が甘いことも実感したので、合宿までにもう少しプログラム内容を詰めたいと思いました。

もう一人のメンバーが再度企画される傾聴ワークショップも、1度経験しあった自分達だからこそ、前回と同じ満足感ではなく、違った感想が持てるような準備をしたいと思います。

その後、GW企画に取り組むにあたって、普段の釜活の乱れやそもそも私たちがお互いどんな生活をしているかを共有できていないのではないかという指摘も陽子さんから頂きました。

企画に夢中になるほど、お互いに黙々と自分の課題に取り組むだけでコミュニケーションを取らなくなる傾向があるということから、一人のメンバーが皆が集まる日を作ろうと、全員参加のもくもく会を企画してくれました。

一人一人開始するもくもく会もその意義はあると感じていましたが、実際にやってみて、皆の存在を不思議といつもより感じられた時間で、GW企画を頑張ろうという意識を持てたと思っています。

最後のメンバーへのフィードバックでは「粘ってほしい」という言葉から、メンバーの所属する会社の文化、そして会社の

飲み会の意味が自分の想像していたものとは全然違うということが分かりました。

そういった違いが結構あるはずなのに流してしまっている現実に改めて気づき、合宿までにもっとお互いのことを拾いたいし、そのためには自分の中のセンサーの感度をもっと上げることが必要なんだと思いました。

今回も長い時間、ありがとうございました！

(A.S 40代女性 大阪府)